

情報を冷静に受け止め判断を

65歳以上の高齢者約3600万人を対象にした新型コロナウイルスのワクチン接種が始まった。だが、特病があったり、投票治療を受けていたりする人も少なくないだろう。どんな点に注意して接種を受けたらよいだろうか。感染症対策の第一人者で内閣官房参与を務める岡部信彦・川崎市健康安全研究所所長と厚生労働省のクラスター対策班のメンバーを務める小坂健・東北大教授に聞いた。

高齢者の新型コロナワクチン接種

接種した医療従事者約2万人に対し、
大しての接種状況調査(午間調査)
検査回答)によると、一回目(回
答者約1万5000人)の接種
後は発熱が3.6%、倦怠感が6.6%、
頭痛2.3%だった。二回目(回答者
1万6000人)では発熱35.9%、
倦怠感69.5%、頭痛5.5%。二回目の
接種後に副作用が出たケース
が多く、接種の翌日に最も多くあっ
るといふ。これが二回目の接種
されるところ。これが二回目の接
種により、ウイルスに対して免
疫がつき始めたためとの見方があ
る。

年代別でみると、年齢が高
くなるにつれて発熱する頻度が下
がる傾向にあるようだ。5歳以下
未満で8.5%、10歳未満で11.5%、
10歳以上で15.5%、20歳未満で20.5%、
20歳以上で24.5%、30歳未満で26.5%、
30歳以上で30.5%、40歳未満で33.5%、
40歳以上で36.5%、50歳未満で38.5%、
50歳以上で41.5%、60歳未満で43.5%、
60歳以上で46.5%、70歳未満で48.5%、
70歳以上で51.5%、80歳未満で53.5%、
80歳以上で56.5%、90歳未満で58.5%、
90歳以上で61.5%だった。

クチンには感染症の発症や重症
化を防ぐなど大きな利点がある
あります。副反応についてのこ
とがあります。強制ではなくて、
正しい情報を得て接種する方
へつかを決めてください」と語
った。

小坂さんほんとうにかからづけ
ワクチンを打つてあるのかな
想でしようが、ファイサーの
クチンは保管条件が厳しい
もあって、かかりつけ医に持
してもらひたかどうかはわから
ない。気となる人は以前にか
りつけ医に相談しておくれ。き
しそう」ハドーピスする。
それほど「接種後 15～30分
とは接種会場で休調に異常が
いか、様子をみることをお勧め
していまます」。これは万一本
ハフィヤンシーが出た場合、
接種スタッフが迅速に対応し
らねばならぬためだ。また、知ら
難いとして立派なのみならず、
一度の感染によって免疫が失
しまつたからといふ事もある。
「ド根性だけ座って待つのが
違うところ。待つ時間は標準的
だよ。本筋を接種するのと、
かもしえだ。

医療機関の負荷を減らす効果は大

「高齢者は特病を抱えていたり、方も多い、体力や免疫力も衰えてくるため感染症に対する抵抗能力も絶えず低下します」と福井市立病院の鈴木は語る。「リスクの高い人たちは、自分の命を守るために高齢者に優先してワクチンの接種が行われています」。

新型コロナウイルス感染症の検査などを
担う川崎市健康安全研究所を視察した当
時の菅義偉官房長官（左）に説明する岡
部信彦所長＝2020年7月、秋山信一撮影



おかべ・のぶひこ 1946年生まれ。東京慈恵医大卒。世界保健機関西太平洋地域事務局伝染性疾患予防対策課長や国立感染症研究所感染症情報センター長などを経て現職。

おさか・けん 1984年生まれ。東北大医学部卒。公衆衛生学が専門。国立感染症研究所主任研究官や厚労省老健局老人保健課課長補佐などを経て現職。



新型コロナウイルスのワクチン接種を受ける高齢者施設の入所者は、曲山市で12日、大西達也撮影